ネットワーク参加者 募集

〒100-0013　千代田区霞が関３-３-１　尚友会館６Ｆ
全国道路利用者会議内
「道路ユーザーネットワーク」係
http://road-jhuc.jp

道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

平成26年度『道路ふれあい月間』推進標語
最優秀賞
『子や孫につなげていきたい道がある』

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

三好礼子
エッセイスト・国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

先日の3月7日、都市高速道路中央環状品川線（山手トンネル）の9．4キロが開通しました。「ワッ！」が繋がることで、人や物の流れが大きく変化することでしょう。かつて2度も中目黒の山手通り沿いに住み、頻繁に山手通りを利用し、愛しすぎて通りや目黒川を自分の小説の中にも登場させていた山手通りフリークの私。このニュースに、思い出が走馬灯のように蘇りました。バイクや車は勿論、マウンテンバイクやジョギング、買い物も打ち合わせも何でも用事はこの辺り。まさに暮らしの舞台だったのです。なので、平成16年に計画決定とありますが、なぜかもっと長い工事だったイメージがあります（ちょっと不思議）。陸橋、カーブ、坂道が以外と多く、かつては道幅が狭かったので、渋滞は避けられませんでした。でも、人々の生活が垣間見えるので、カフェテラスが似合うちょっとパリっぽい道。

環状線開通で何が変わったのだろう、そして新しい道はどうなのかと興味は尽きず、さっそく現地に向かいました。私みたいに用もないのに行きたくなる人が多くて迷惑だろうなあと思いつつ・・・。仲間から初日は五反田出口渋滞だったよと情報も入ってくる中、大橋経由で大井までの区間を走ってきました。

開通から3日目。八王子方面から首都高に入った所にある情報看板、かつては赤い渋滞マークが多かった大橋JCTだけがノーマークです。「やったあ！」。そしてJCTから先で大きなカーブを描いた時、「あそこの辺りを通っているのかな」などと分かった自分がちょっと嬉しかった。「照明、キレイだなあ」。すぐに別なものに変わったけれど、どこにどんなものを選んだのかが、とても気になります。追い越し車線側の路側帯が狭く感じたけれど、左側には広く取られていました。「ふむふむ」。私もゆっくりですが、時速60キロをみんな味わう様に走っています。噂通り、カーブの多さが印象的でしたが、傾斜もアールも走り易くいい感じで、これぞ山手通りの山手トンネル。「楽しい！」。急カーブを表す赤い矢印マークもとても見易く、15分の旅はあっという間に終わってしまいました。トンネルを抜けると、東京湾は雨でしたが、とても清々しかったです。

実は今回、いろいろ調べていて一番面白かったのは、定点観測でさまざまな場所の工事進行状況が動画で紹介されていた事でした。シールドトンネルと言っても、全ての進み方を見たことはありません。ジャンクションの製作過程も感動的で、全部を見ると走る時の有り難さが違います。工事の方達、本当に嬉しいだろうなあ。

そして、この開通の翌日には、圏央道では8日に神奈川県の「寒川北ー海老名」区間が開通しました。ここも所用が多くすぐにでも使いたい区間ですが、2020年の東京五輪・パラリンピックに向けて、首都圏3環状道路の開通が相次ぎます。どう都心は変わるのか。東京が変わると日本も変わります。渋滞緩和だけでなく、防災や車社会の未来の方向性を示すいいモデルであって欲しいと思います。

さて、最近「どこでもジョギング」を敢行している私ですが、東京で走る度に「え、こんな道あった？」という街路と遭遇してビックリ。車だと走る道が決まってしまいますが、ジョギングだと好奇心で進むので、選択肢が広がるのでしょう。ここ最近のランで驚愕したのは、かつて住んでいた西新宿と新聞社のプレスライダーで走り回った新橋界隈。幾度も通った道なれど、田舎暮らしをしているうちに大変貌を遂げていました。新宿では、どん詰まりだったところから大きな道路が延びており、新しいお洒落な遊歩道も発見。新橋ではかつてが思い出せないほど立派な道路が（汐留JCTと虎ノ門を結ぶ道でした）。そういえば、街路事業の仕事の時に、紹介されていた所じゃないのかな？と、頭の中でシーンが巡ります。単なる田舎者のように写真を撮りまくり、「わーっ」「ひゃーっ」と奇声を発する私。回りの目は気にならないけれど、ちっとも進まなくてランの練習にならないのですが・・・。

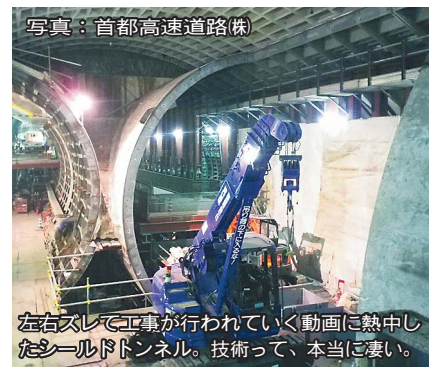
なんだかお洒落♪新橋がこうなると誰が思っただろう。東京は進化する生物のよう。

山手通りの中野坂上界隈を初ジョグ。裏道にも遊歩道があり、朝は空気も奇麗だったなあ。

話題の首都高。SAに4月まで置いてある小冊子に、私のインタビューが載ってま～す♪

写真：首都高速道路㈱

つながりを一番待っていたのはこの大橋JCTかも。ようやく流れるイメージになるね。



写真：首都高速道路㈱

左右ズレて工事が行われていく動画に熱中したシールドトンネル。技術って、本当に凄い。

「道路」を表す言葉③ ニューヨークの新しい「アベニュー」

東洋大学国際地域学部・准教授　志摩憲寿

グリッド状の都市ニューヨーク・マンハッタンは、1811年の委員会計画（The Commissioners' Plan）で南北に走る16本の「アベニュー」（番街）と東西に走る155本の「ストリート」（丁目）から成るグリッド状の街路網が構想され、x座標・y座標よろしく「6番街50丁目」と場所を表現することはよく知られています。よくよく考えてみると、それはニューヨークに限ったことではなく、グリッド状の街路網を持つ都市ではよくお目にかかる訳で、例えば、京都では「梨ノ木通り今出川下ル」等、通りの名称による住所も通用しており、それを覚えるために「まるたけえびすにおしおいけ・・・」（丸太町通、竹屋町通、夷川通、二条通、押小路通、御池通・・・）という童歌もあるくらいです。日本で最初に形成されたグリッド街路網と言われる大和古道もまた「上ツ道」、「中ツ道」、「下ツ道」という南北に3本通る道とそれに直交する「横大路」という東西道路によって構成されていたと言いますから、既にこの頃から通りの名称で場所が認識されていたことでしょう。

グリッド状の街路網の歴史はかなり古く、例えば、中国では、日本の平城京のモデルとも言われる唐の首都・長安に先立つ前漢の時代（紀元前206～8年）、中国最古の技術書と言われる「周礼考工記」には、城壁に囲まれた都市の中に東西・南北それぞれに3本各9本の通りが通るという都市モデルが描かれています。古代ギリシャには幾何学が生まれ、また、政治理論家ヒッポモダスらによる都市計画の理論化も手伝って、紀元前5世紀頃からグリッドプランが使われていましたし、古代ローマでは、カエサルの時代に都市改造されたアレクサンドリアがグリッド状の街路パターンで有名です。そして、記録に残る最も古いグリッド都市は、紀元前3000年代、インダス川流域に栄えたモヘンジョ・ダロだとされています。モヘンジョ・ダロは、主街路が東西と南北に走り、250メートル×400メートルの街区、幅員5メートルの小路、幅員2～3メートルの路地によって構成される整然とした区画を持っていました。果たしてこの頃から通りの名称で場所が表されていたのでしょうか、残念ながらそこまでは分かりませんが、少なくとも私たちはもう5000年以上もグリッド状の街路網に親しんでいることになる訳です。

話は戻ってニューヨーク。実は2012年に新しい座標系が導入されました。セントラルパークの南51丁目と57丁目にかけて、6番街と7番街の間に「6．5番街」が作られたのです。それは、もともと人々が通り抜けていたアーケードや公開空地を利用したもので、ニューヨーク市が歩行者専用の「6．5番街」に指定したという訳なのです。ハリーポッターはキングズ・クロス駅の9と3／4番線から魔法の世界へと出発します。果たしてこの6．5番街を抜けると・・・。

（参考文献）伊藤毅（2006）「歴史のなかの都市グリッド」、『10＋1』、No.45、pp．213-224、日端康雄（2008）「都市計画の世界史」講談社現代新書

例えば、ラジオシティ・ミュージックホール
ここは6番街50丁目

ハッと思いました

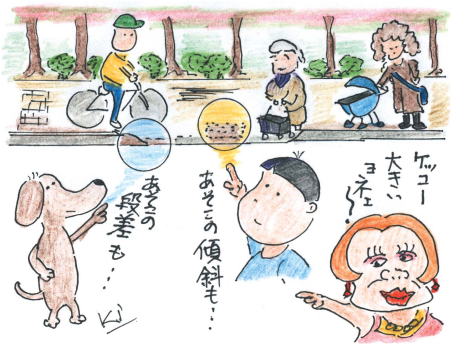
三月三日は、桃の節句でした。

三月の巳の日に、身に降りかかった厄を洗い流すために、水で身体を流して、禊ぎをしていたのが始まりで、それから、人型の紙を使って身代わりとして水に流す・・・流し雛の風習から始まり、人形を手にとって遊びながら厄を落とす様になったそうです。雛人形を見ているととても、優雅な気持ちになり、人のやさしさをじんわりと感じてしまいます。

年をとったせいでしょうか、春になると無条件で気分が良くなります。道端の草や見上げた空に浮かぶ雲や、ちょっとした事が目に止まり、何を思うでもなく詩人になった様な気になります。只の妄想人ですね。

通りを歩いている人、ホームにいる人、車内の人のほとんどが、素敵な自然の様子には目もくれず、ケータイ画面に釘付けです。「もったいないよ」と言いたいです。

今の時期、朝の通勤電車の車窓からくっきりと富士山が拝めます。すんだ空気のお蔭でとてもきれいに浮かび上がっています。そして、線路沿いには、何となく淡く色づいた桜の木々が目に入ってきます。三十年ほど通い続けたこの場合、健康志向からはじめたようですが、今ではすっかりセミプロ（？）みたいです。



沿線の桜の木は、今年も同じ場所で花開こうと準備しています。

町並みや個別の建物などはみるみる変わっていきますが、桜は去年と同じ場所にどっしりと根をはっています。「桜」は不思議な木です。精々三百六十五分の七日のお披露目なのに、その存在感は圧倒的。

ブラブラと散策しながらお出かけするのにも心地よい季節になってきました。友人にはサイクリングや、マラソン（ランニイグ）を趣味にしている仲間が地方部・都市部を問わず結構います。かなり本格的にチャレンジしているようです。ほとんどは気にならないけれど、ちっとも進まなくてランの練習にならないのですが・・・。

自転車やランニング、ウォーキングなどクルマ以外の手段で外出する人たちが増えてきた今、ただただ健康のためだけではなく、ちょっと目をやる場所を広げて見ませんか。

たとえば、「バリアフリー」とか。この言葉が乱舞したのは何年前だったでしょう。今ではそれほど話題にあがらない気がしています。建物の中では、かなりバリアフリー化が浸透している様ですが、外ではどうでしょう？

肌身で感じた事、経験した事が最も有効な情報です。道路の利用者として、ささやかながらも大切な役割かも知れませんね。